ヨコハマ市民まち普請事業

整備事例集vol.11

平成 28 年度整備事例集

私たちのまちを　私たちでつくる
きっとまちが好きになる

ふ-しん【普請】「普く請う（あまねくこう）」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。
「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民の皆さんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足感を高めることに繋がっていきます。「まち普請」には、市民に身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

「まち普請事業」についてはホームページをご覧ください。
http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chiikimachi/machibushin/

Webで検索 まち普請 検索

Facebook「ヨコハマ市民まち普請ひろば」もご覧ください。
https://www.facebook.com/yokohama.machibushin

Webで検索 まち普請ひろば 検索

ヨコハマ市民まち普請事業

整備事例集vol.11

平成28年度整備事例集

CONTENTS

P.2 事業のあらまし
P.3 整備事例 ❶湧水を住民のいこいの場に！子どもたちに自然体験を！（泉区）
P.4 整備事例 ❷住民同士の輝き「人材マップ」を中心にした拠点づくり（金沢区）
P.5 整備事例 ❸東山田工業団地に案内板、掲示板、会社マークを設置（都筑区）
P.6 提案が「かたち」なるまで

横浜市地域まちづくり推進委員会
ヨコハマ市民まち普請事業部会委員【27年度選考委員】（五十音順）

※所属は平成29年11月現在

岡本　溢子	市民委員（公募）
河上　牧子	明治大学地域ガバナンス研究所客員研究員（都市政策・コミュニティ計画）
塩入　廣中	市民委員（公募）
菅　博嗣	株式会社あいランドスケープ研究所代表取締役（花とみどり・公園緑地）
杉崎　和久	法政大学法学部教授（公共政策）
鈴木やよい	NPO法人横浜市民アクト理事（まちづくりNPO）
早田　宰	早稲田大学社会科学総合学術院教授（協働による都市・住民・コミュニティづくり）
西田由紀子	よこはま市民メセナ協会会長（まちづくり・市民活動）

事業のあらまし

「ヨコハマ市民まち普請事業」は、横浜市地域まちづくり推進条例に基づく支援策の一つとして、平成17年4月に始まり、29年4月で13年目を迎えました。

この「ヨコハマ市民まち普請事業」とは、市民の発意とアイデアによる地域課題の解決や魅力向上に資する施設（ハード）を、身近な地域の公共空間や私有地などに整備する提案を募集し、2回の公開コンテストにより選考された提案に対して次年度に最高500万円の整備助成金等を交付する事業です。整備場所又はその近くの在住者、事業者又は土地・建物の所有者等の3人以上のグループであれば、どなたでも応募することができます。18年度から整備が始まり、28年度までに44か所が整備され、地域の皆さんのまちづくりの夢が実現しました。

今回は27年度に選考され、28年度に整備を行った3か所をご紹介します。27年度に実施した一次コンテストには、9件の応募があり、このうち4件が選考されました。そして二次コンテストにおいて、3提案が整備助成対象に選考されました。

この事例集では、この3提案について、応募に至った経緯、グループのメンバーや地域の方々がコンテストに臨むまでに積み重ねてきた試行錯誤や工夫の様子、実際に整備を行う中で生まれた地域での新たなコミュニティや完成した施設のことなどを紹介します。

自分たちのまちへの思いを自らの手で「かたち」にしていく「ヨコハマ市民まち普請事業」。次は皆さんのまちで取り組んでみませんか。

整備の年度　コンテストの年度（平成27年度）

自ら主体となって生活環境の整備をしたい市民グループ

[4/6〜6/5] 整備提案募集

ヨコハマ市民まち普請事業部会による選考
（学識経験者・まちづくり実践者・市民委員（公募））

[7/4（土）] 一次コンテスト開催

[9/26（土）] 活動懇談会・企業マッチング会

[1/31（日）] 二次コンテスト開催

市民自ら整備・維持管理を実施
整備助成金として最高500万円を交付

「ヨコハマ市民まち普請事業」は、日本都市計画学会賞の平成26年度「石川賞」を受賞した事業です。

「石川賞」は都市計画に関する独創的または啓発的な業績により、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をした個人または団体を対象としている賞です。

「ヨコハマ市民まち普請事業」の授賞理由では、「物的な再生だけではなく、人と人とのつながりの再生も育まれるなど、市民主体の都市計画を体現するものとして大きな成果を挙げている」点を評価していただきました。

整備事例 1

湧水を住民のいこいの場に！子どもたちに自然体験を！（泉区）

～貴重な湧き水の森の魅力を後世に残すために～

鬱蒼とした森に日差しが差し込み、今では散歩コースになった「わきみずの森」。

泉区南部、戸塚区とのほぼ区境に位置する泉区下和泉地区。住宅地と畑、米軍深谷通信所跡地に隣接した雑木林にその湧水はあります。かつては子どもの遊び場にもなっていましたが、高度経済成長期の頃から水枯れが起こり、粗大ゴミが大量に捨てられ、防犯面でも地域の課題になっていました。

この取組の契機となったのは、平成26年の町内会の春の環境整備と並行して行われた環境チェックの活動です。この時、住民から「湧水を守ってほしい」という要望が出されました。現在も代表である滝川さんの呼びかけで、有志12名が集まり、3名の地主さんの承諾を得て、「下和泉湧き水を守る会」を結成しました。週に1回2時間、湧き水周辺の倒木の除去、薮払いやゴミの片付けの整備を地道に続けていたところ、区役所の職員から「ヨコハマ市民まち普請事業」を紹介されました。「湧き水を増やす大きな整備ができる」と夢が広がり、事前登録（※）をしました。横浜市より派遣されたまちづくりコーディネーターとともに、過去にまち普請事業を活用して整備した事例を見学するなどして、提案内容を詰めていきました。一次コンテストへの挑戦の際には、事務作業の得意な近隣の女性チームの参加と区役所・地域ケアプラザの職員のバックアップが大きな力になりました。

遊歩道の整備の様子。
手をかけたことで愛着が深まったとの声も。

一次コンテストを通過した後に待ち受けていた課題は、地域住民の理解を得ることでした。町内会に説明に赴いた際には「本当にできるのか」と半信半疑の声や、近隣の湧き水の利用者からは「下手にいじって湧き水が出なくなると困る」と反対の声があがりました。そのため、町内の住民にアンケートをとったり、「せせらぎ通信」という広報紙を発行するなどの活動を進めました。それでも、湧き水の利用者からはなかなか理解を得られずにいました。しかし、よく話をしてみると、この方々は20年も前から、雑木林の中に捨てられた大量の粗大ゴミを片付けたり、道路沿いに花を植えたりされていることが分かりました。そこで守る会のみなさんは「我々の先輩」であり、感謝と尊敬の心を持って接することが重要と考え、すすんで挨拶をしたり、花の育て方や花壇の管理の仕方を教わったりして徐々に理解と信頼を得ていきました。また、工事で水汲み場が使えなくなるときには、別の水汲み場をつくるなどの配慮をしました。

工事に入る前には、子ども含めて地域住民を招き、「湧き水を掘る会」を4回行いました。それは審査員の「行政や業者に任せるだけでなく、住民も協力することが大事。そうすることで、自分たちの場所だという意識が育っていく」という助言から生まれたものでした。その後も、遊歩道や安全柵、花壇づくりなどにも、住民が進んで関わってくれました。

水場まで近づけるようになり、子どもたちの遊ぶ姿も見られる。

そうしてオープンした「わきみずの森」には、散歩をしたり、ベンチで休憩したり、親子で虫捕りに来たり、住民の憩う姿が見られています。近隣の幼稚園や小学校も学級単位で見学に来たり、月に2回行っている日曜作業には子どもや子育て世代が参加するようになっています。

「地域住民に森と泉の憩いの場を！子どもたちに自然体験！そしてそれを若い人に引き継いでいきたい」という、下和泉湧き水を守る会のみなさんの願いは、まち普請事業を通して、次のステップに進んでいます。

※事前登録は一次コンテスト提案募集期間前に、提案内容の熟度を高める制度です。横浜市まちづくりコーディネーター等の派遣を受けて、アイデアのまとめ方、応募書類の書き方、技術面などでのアドバイスを受けることもできます。

湧水を住民のいこいの場に！子どもたちに自然体験を！（泉区）
整備主体…下和泉湧水を守る会
整備場所…泉区下和泉4丁目
整備内容…湧水池の小川および周辺環境の整備
協力企業…株式会社 小菅造園
竣工時期…平成29年3月

整備事例 2

住民同士の輝き「人材マップ」を中心にした拠点づくり（金沢区）

～「人材マップ」が育んだ地域の力が生んだ、さらなる力の源となる拠点～

横浜市の南端である金沢区の南側、横須賀市に接した六浦東地区では、20年も前から「人材マップ」を活用した地域ぐるみのまちづくりが行われていました。「人材マップ」はその中心人物でもあり今回の整備の発起人でもある滝澤さんが、当時、主任児童委員として活動する中で、子どもと大人の交流が必要と考え、そのきっかけとして、地域の大人が持つ技能を発揮してもらうために作ったのが始まりです。この「人材マップ」を核にして、様々な取組が生まれてきましたが、滝澤さんは活動拠点が必要だと考えるようになり、その思いを町内会や地区社会福祉協議会の会長に伝えました。地区推進連絡会で提案し、賛同を得たことで、地域福祉保健計画に盛り込まれることになり、実行委員会を立ち上げ、拠点づくりに取り組むことになりました。そして実行委員会のメンバーの区役所の職員から「ヨコハマ市民まち普請事業」を紹介されます。

住民の手で塗られた緑色の壁面が目印の「もりのお茶の間」。

計画の参考にするためこれまでのまち普請事業で整備された拠点を見学して回る中で、拠点のグループの方から「どのような拠点にしたいか、アンケートをした方がいい」というアドバイスを得ます。そこで地域の3，000世帯にアンケートをとったところ、「喫茶・サロン」に加えて、「ランチが食べられるように」、「情報が欲しい」、「大人の文化活動をしたい」などが上がってきたので提案内容にこれらの声を盛り込みました。一次コンテストでは、地域の多くの方々が応援に駆けつけ、また、近隣の大学の先生や区役所の職員が直前までプレゼンの練習に協力してくれた成果もあって、見事トップ通過を果たします。

しかし、二次コンテストに向けて大きな課題が発生しました。整備の対象としていた建物が現在の法律の基準を満たしていないことがわかったのです。それからは空き家や空き店舗を探し回る日々。2ヶ月半後、「もうダメか」と思い始めた頃に候補となる空き家がようやく見つかるのですが、今度は耐震強度が足りないことがわかります。まち普請事業の助成金は耐震補強に充てることができません。このため、耐震補強のための寄付を集めることにしました。二次コンテストでは整備後の運営の説明に力を入れ、無事コンテストを通過します。「ここで『人材マップ』で積み重ねてきた地域への信頼がものを言った」と、会長の岩﨑さんはおっしゃいます。

整備においては地元の建設業者が総動員されました。延べ600人以上の住民が参加して、プロの管理・指導のもとで解体や内装工事、ペンキ塗りなどを自分達で行いました。愛称を地域で募集したところ231種類が集まり、その中から「もりのお茶の間」が採用されました。

オープン後は特にランチが評判で、開店後早々に予約で埋まってしまうほど。この他にも、支え合い事業、スクール事業などを展開し、子どもから高齢者までが集う拠点となっています。最新の「人材マップ」第9版には、ここで活躍する子どもたちも掲載されるそうです。

「もりのお茶の間」ができたことで、日々人が集うようになり、そこから見えてきたニーズを踏まえて、新たに認知症や子どもの貧困に対する取組を始めるなど、どんどん活動の幅が広がっています。「人材マップ」に「もりのお茶の間」が加わったことで、さらに地域の力が増幅されていくようです。今後の活動がますます楽しみです。

解体は住民の手で複数日に渡って行われた。

（上）寺子屋の様子。講師は、地域の元教員や、学生が務める。（下）「お茶の間サロン」のミニコンサート。高齢の方々に人気だ。

住民同士の輝き「人材マップ」を中心にした拠点づくり（金沢区）

整備主体…六浦東・まち交流ステーション委員会
整備場所…金沢区六浦東1丁目
整備内容…コミュニティスペース（長屋改修）
協力企業…有限会社 伊藤工務店
竣工時期…平成28年11月

整備事例 3

東山田工業団地に案内板、掲示板、会社マークを設置（都筑区）

～企業が企業市民として住民と一体となった、工業団地の新たなまちづくりの形～

（左）エリアマップ。マップの周りには子ども達が考えたキャッチフレーズの入った企業プレート。（右）掲示板とポイントアート。

都筑区東山田工業団地で産業用・工業用ヒーターの製作を行っている「株式会社スリーハイ」は、オープンファクトリーをはじめ、地元小学校と協力してベルマーク運動をしたり、積極的に地域貢献活動に取り組んでいました。「つづきっず、はい！」は、元々そのための組織として立ち上がったものです。企業の一部門が整備主体であった点が、これまでのまち普請事業の整備事例と大きく異なる特徴です。

代表取締役である男澤さんは、平成25年頃から準工業地域である工業団地内に住宅が増え始めたことで、「ここで操業し続けるには、もっと住民と知り合いになって、地域に根付くことが必要だ」と考えるようになりました。そこで、近隣の中学生と一緒に工業団地の防災マップを作ったり、小学校3年生の「まち探検」の受け入れを始めます。この「まち探検」で活用していた工業団地内に設置されていた大きな地図が撤去されてしまい、「地図を復活させたい」と男澤さんが情報を集めていたところ、「ヨコハマ市民まち普請事業」を見つけます。「スリーハイがやることなのか、行政がやることなのかわからない」と思いながらも、気軽に事前登録をしたことが始まりだったそうです。

この造成が大変だったけど、その分つながりが深まったとのこと。

しかし、一企業の組織である「つづきっず、はい！」が、地域のまちづくりに取り組むことに対して、社内でも、対外的にも理解を得ていくことが難しかったそうです。ここでキーマンになったのが、近くの小学校でPTA役員をされていた蟹江さんでした。ベルマーク運動も、まち探検も蟹江さんが小学校の一員として関わっていたのですが、その後、スリーハイに入社し、さらに「つづきっず、はい！」の中心的な役割を担うようになります。地域住民であり、小学校の地域コーディネーターも担当していた蟹江さんが、社内では男澤さんと社員の皆さん、そして会社の外では学校や町内会、さらに地域の活動者と「つづきっず、はい！」の間をとりもつことで、協力者は徐々に増えていきました。男澤さん自身も、どんどん「企業市民、東山田住民になっていった」そうです。

また、「ゼロからまちづくりをする」という意味を込めた「ゼロまちカフェ」を定期的に開催して、地域との意見交換を進めていました。その中で、ある高校生が『準工業地域』は魅力だと思っていました」と発言したことに、男澤さんはハッとしたと言います。一次コンテストでは「準工の課題を解決する」と言っていたのが、この発言をきっかけに「住宅と工場が混じり合うことを魅力として発信する」と、視点がガラッと変わりました。この頃にはもう「つづきっず、はい！」は一企業の組織ではなく、地域の組織へと変わっていました。その結果、見事二次コンテストを通過します。

コンテストを通過してからも「ゼロまちカフェ」は続けられ、その中で具体的な整備の方法が詰められていきました。参加者の小学校の先生の協力で、6年生が総合学習の時間を使って団地内の企業に訪問インタビューをし、企業のキャッチコピーを作り、それを整備するマップに載せることになりました。マップを設置するための地面の造成や、看板のペンキ塗り等は地域の皆さんと一緒に行い、そこでさらに地域のつながりが深まったとのことです。

整備が完了してから初の「まち探検」では、エリアマップ、掲示板、ポイントアートをフル活用し、学校や保護者の理解や信頼度も高まったそうです。また、団地内の企業間のつながりも強くなったとのこと。「地図を復活させたい」という最初の目的は果たされましたが、それ以上のものが東山田工業団地にはもたらされました。さらに、平成28年には「一般社団法人横浜もの・まち・ひとづくり」を設立し、平成29年には新たに拠点となるカフェがつくられるなど、まだまだ東山田から目が離せません。

東山田工業団地に案内板、掲示板、会社マークを設置（都筑区）

整備主体…つづきっず、はい！
整備場所…都筑区東山田4丁目
整備内容…エリアマップ、情報掲示板、ポイントアート
協力企業…株式会社 大倉、千代田建設株式会社
竣工時期…平成29年1月

まち探検では、ポイントアートがチェックポイントになり、掲示板にもクイズを貼るなど、工夫が凝らされている。

熱意に加えて、より具体性を

二次コンテストでは、検討を重ね磨きあげた提案を発表していただきます。発表は、映像を用いたり、寸劇をするなど工夫して行われています。公開での審査・投票を経て、助成対象となる提案が選考されます。

審査基準
①創意工夫　②実現性　③公共性
④費用対効果　⑤地域まちづくりへの発展性

先輩として サポートする立場に

整備が完了したグループには、地域まちづくりをさらに盛り上げていくためのお力添えをお願いしています。他のグループやこれから提案を考えている方々への助言・支援にご協力ください。

活動
懇談会・企業マッチング会

ステップ
上を目指してさらに前進
二次コンテスト

通過

ジャンプ
年をまたいでゴールへ向かう
整備（次年度）

※企業マッチング会は平成 27 年度から実施

アドバイス

審査員、まち普請事業の先輩です。二次コンテスト通過にバイスを受けることができます。高い企業とのマッチングの機

整備助成金

二次コンテストを通過すると、設計費、工事費、工事監理費などに使うことができる最高**500万円**の整備助成金を受けることができます。

整備・活用運営

つくって終わりではありません。維持管理、活用運営を通して、まちづくりの輪を広げていきましょう。

提案が「かたち」になるまで

相談・応募から活用運営までの流れ

アイデアと熱意が勝負

一次コンテストでは、審査員と一般参加者に向けて提案内容を説明していただきます。審査員との質疑応答を経て、公開投票により二次コンテストへ進む提案が選考されます。

審査基準 ①創意工夫　②意欲　③公共性

ここから夢がスタート

「応募申込書」と地域で取り組んでみたい施設整備のアイデアをまとめた「提案書」を提出してください。

ホップ
まずは前を向いて大きな一歩

一次コンテスト

通 過

応募

相談

事前登録

※事前登録は応募の必須条件ではありません。

活動助成金

一次コンテストを通過すると、まちづくりの専門家の支援や活動の広報などに使える、最高 30 万円の活動助成金を受けることができます。

意見交換と

計画づくりの段階で、と意見交換できる場向けて、具体的なアドまた、地域貢献意欲の会もあります。

支援内容

- 提案内容の整理や関係機関との話合いなどを市の担当者が整備完了まで支援します。
- 一次コンテストを通過すると、まちづくりの専門家を紹介します。

ヨコハマ市民まち普請事業

整備事例集vol.11

平成 28 年度整備事例集

●発行　平成 29 年 11 月
横浜市都市整備局地域まちづくり課
〒231-0017 横浜市中区港町 1-1　TEL 045-671-2679　FAX 045-663-8641
●編集・デザイン　特定非営利活動法人 アクションポート横浜
●デザイン・印刷　株式会社野毛印刷社

ヨコハマ 人・まち
-まちの人がまちをつくる-

身近なまちづくりに役立つ無料のメールマガジン「ヨコハマ 人・まち」を読みませんか？

メールマガジンについてはホームページをご覧ください。　ヨコハマ　人・まち　検索

あちこち・ドキドキ・ハマのまち
都市整備局